



父母と学ぶ会だより

NO. 16 研修報告号～H26年4月発行



講演1 「てんかん こうしてなおそう～正しく理解し賢くつきあう～」

静岡てんかん神経医療センター 診療部長 久保田英幹先生

講演2 「てんかんをもつ子どもの発達支援」

静岡てんかん神経医療センター 心理療法士 杉山修先生

「てんかん」についての講演会に参加しました。てんかんの発病率としては、10代までが一番高く、その後、20代、30代と減少していきませんが、60代、70代になると、10代の時よりも発病率が上がるということでした。そもそも、てんかんとは、どのような病気なのでしょうか？京都で起きた交通事故が「てんかん発作」によるものだったことが分かり、世間では「てんかん」を持つ人への関心が上がったのと同時にイメージが下がりました。そして、その関心やイメージから根も葉もない噂もありました。ある新聞記者は「てんかんを持っている人は(突然)怒るらしいじゃないですか」と。個人を批判し、家族を批判し、会社を、国を、社会を批判しました。そして法律まで変わりましたが、何処まで新しい知識は広まったのでしょうか？

久保田先生は言いました。法律は守らなければならない。法律は合法的でなければならない。そこから溢れてしまう(状況がある)場合は、特別な措置をしなければならない、と。ではその特別な措置は何処からやってくるのでしょうか？「てんかん」を持つ人たちの幸せや満足はいつ確保されるのでしょうか。

大切なことは、自分自身がてんかんのプロになることです。てんかん発作の状況を知り、前兆を知り、観察・記録をすることです。また、発作の誘因となることも、色々と考えられます。例えばチェックの服を見たり、扉を閉める音を聞くことで発作が起こることもあります。例えば、発作が起こる前の前兆で、目の前がキラキラして見えたり、食べ物が悪くなることもあります。日々の生活の中での注意力が、てんかんのプロへの第一歩です。

最後に、「てんかん」とは、奥の深い病気であるため、一朝一夕で習得することはもちろん出来ません。本を読んで勉強したり、講演会に参加したり、病院に行って先生と相談しながら治療してほしいと思います。(文責 林祐太)

朝の職員打ち合わせで輪読しています

感想です



- ・血圧が高くなると様々な合併症を起こす危険性があることを知りました。
- ・頭痛や発熱などの風邪症状が出たときに自分で判断せずに専門医を受診することが大切だとわかりました。
- ・汗以外の体液に触れる時に対処する自分や周囲への感染の危険性があることを知りました。
- ・鼻血の際は上を向かない、ティッシュを鼻に詰めない、鼻血だからと言って安易に考えてはいけないと学びました。

緊急の事態でも落ち着いて対応できるようにしていきたいです！

介護現場で役立つ!!

ワンポイント医学知識

H26年3月4日

講師 介護センターひより 統括所長 多田みゆき



まず、介護職が行ってよい行為について説明します。医師法と保健師助産師看護法では「医行為ではないと考えられる行為」と決められています。簡単にいうと治療する必要のない安全な状態であること、内服薬や座薬については使用に関して専門的な配慮が必要でないこと、とされています。

(具体的な内容)

- バイタルサインの測定 (体温・呼吸・脈拍・血圧)
- パルスオキシメーターの装着
- 切り傷、擦り傷、やけど (軽いもの) の処置
- 爪切り ● 口腔内の清潔
- 耳あかの除去 ● ストマの排泄物廃棄
- 自己導尿の補助 ● 浣腸

パルスオキシメーター (下図)



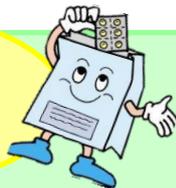
これを指先に装着し、経皮的 (皮膚を通して) 光をあて動脈の色を計測することで動脈酸素飽和度 (SpO₂) を測定します。呼吸状態、体内の酸素状態を知る目安となります

高齢者の症状や疾患の特徴として

・一人で多くの疾患を有していること・症状が決まった形で現れなかったり、顕著に発現しにくいこと・薬物に対する反応が若年者とは異なって出てしまったり、副作用が出やすいことなどが挙げられます。ちょっとした原因でも生命の維持に必要な水・電解質などのバランス保持作用の異常をきたしやすいことから、小さなことから寝たきりの状態をもたらす頻度が高くなります。

大切なことは 小さな変化に気づくこと、早く気づいて対応することです。 バイタルサインは個人差が大きいため、日頃から平均値や通常の状態を知っておくことが大切だと改めて感じました。(文責 栗田百江)

介護職のための 薬の知識



研修会で使用した
本です

意外とちゃんと知られていない

- ・薬の服用時間 (食前、食直前、食間…など)
- ・薬の保管の方法 (種類によって保管法はちがいます)
- ・薬の有効期限 (開封後の点眼剤、点耳剤はおよそ1ヶ月です)
- ・薬どうしの飲み合わせや飲食物と薬の相互作用 (高血圧の薬は作用が強まってしまうのでグレープフルーツとは一緒にとってはいけない) などについて詳しく書かれています。

皆さまのお家の薬箱は大丈夫でしょうか? 介護職だけでなくご家族の介護をされる方にもオススメです! (文責 栗田百江)

(編集 岩谷由香利)